

# KANSAI GAIDAI UNIVERSITY

## 「平」らな崖・傾斜地名について

メタデータ	言語: jpn 出版者: 関西外国語大学 公開日: 2016-09-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 加藤, 昌彦 メールアドレス: 所属: 関西外国語大学人権教育思想研究所
URL	<a href="https://kansai.gaidai.repo.nii.ac.jp/records/5720">https://kansai.gaidai.repo.nii.ac.jp/records/5720</a>

## 「平」らな崖・傾斜地名について

人権教育思想研究所教授 加藤 昌彦

日本の地名には、その漢字をどのように読むのか苦しむ地名があります。石動いするぎとか指宿いぶすきとか雁多尾畑かりんど おぼたなどの地名は、出合った時に多くの方がとまどわれることでしょう。また、地名の中には読むことは出来ても、それがどういうことを意味するのか、日本漢字からでは分からないものもあります。たとえば軽井沢とか目黒とかなどです。<sup>注1)</sup>

また、地名のなかには、簡単に読めて、その意味もすぐ分かるけれど、よくよく考えてみると、地形と地名がまったく合っていない、時には真逆な地名があります。たとえば、大阪府柏原市に平野という地名があります。そこに行ったことがない人なら、そこは平野部の広々としたところと想像するかもしれません。しかし、ここは山の中なのです。そればかりではなく、福岡県黒木町には890mの平野岳があります。平野の山というのは不思議なことです。

大阪府の岬町にも平山ひらやま (254m) という山があります。「平」という漢字は、どのような漢和辞典で意味を調べてみても「平らか」で、山の意味はありません。<sup>注2)</sup> しかし、ヒラがアイヌ語のピラ (pira崖の意味) から、音韻変化したものであることが分かると、この謎が容易にわかります。この平山は四国・紀伊半島を横断する中央構造線断層帯の上であり、吹き上がってきたマグマが急速に冷えてできる柱状節理が出ています。ここから南東3<sup>き</sup>のところにある平井峠にも同じ柱状節理の石があります。雨が降ったりすると、落石の危険があるところですが、縄文時代において、豪雨などが急激に降る時には、危険であるというサインを地名に付けたのではないかと思われます。崖を意味するピラに万葉仮名で平という漢字があてられ、その後、その平ひらの意味がわからなくなって、平ひらに山が加えられて、平山と合成されたであろうと思われます。

本調査はそうした日本地名の奇妙さに魅入られて、アイヌ語でもっとも

ポピュラーな単語のひとつの“pira”を取り上げて、この地名の存在する地域に行き、その地形を調査したものです。<sup>注3)</sup>

調査の開始当初、どのような結果が出るのか予想がつきませんでした。アイヌ語で崖を意味する「ひら」は、日本列島全域でどういう位置を占めるのか。それは希少な特例なのか。日本列島全域にあまねく存在しているのか、又偏在しているのか。逆に、平という漢字の意味が分かって使用された割合は大多数かどうか。このことを調査者の恣意的な調査地域ではなく、ある一定地域全域で調べると、はっきりと数字が教えてくれるのではないか。

そのために調査者は東京都・大阪府・福岡県という関東以西の日本の3地域、つまり関東・関西・九州から、それぞれ一つを選んで3都府県すべてを調べることにしました。その他に滋賀県大津市、神戸市、岡山市、広島県福山市、香川県高松市、愛媛県新居浜市、熊本市の全域計136ヵ所と、その他の「ひら」地名について19ヵ所、総計155ヵ所を2011年春から2015年まで実地調査をしました。

前もってお断りしておく、地名の解析はまことに難しいものがあります。地域に深く関係する人名や、又その短縮形、地域の合併による地名の合体、地名の創造等々、よくよく調べなければなりません。またアイヌ語で解析したとしても、解析者によって、内容はかなり離れてきます。この文章に出した解析例は一つの解析例として、お考え下さい。

## 1. 調査から見た「ひら」「平」地名の姿

調査地域を、平らな地形でない地域（崖や傾斜地と含む地域）と、平坦地であるところを分類し、次頁の表にしました。調査した各地については、末尾に資料として報告しました。

東京都では26調査地域のなかで、崖・傾斜地の地域は11で、約42%が崖や急傾斜地を含んでいました。大阪府では25調査地域のなかで、崖・傾斜地地域は14で、約56%が崖や急傾斜地を含んでいました。福岡県では33調査地域のなかで、崖・傾斜地の地域は14で、約42.4%を占めていました。滋賀県大

「平」らな崖・傾斜地名について

	東 京 都	大 阪 府	福 岡 県	滋 賀 県 大 津 市	京 都 府 八 幡 市	京 都 府 木 津 川 市・ 芥 子 町	兵 庫 県 神 戸 市	岡 山 県 岡 山 市	広 島 県 福 山 市	香 川 県 高 松 市	愛 媛 県 新 居 浜 市	熊 本 県 熊 本 市		
平 坦 地	14	9	13	0	1	0	2	4	0	2	1	2	48	35.2%
崖・傾斜地	11	14	14	6	3	8	3	2	4	4	1	2	72	52.9%
測定困難地	1	2	6	0	0	1	0	0	0	2	1	3	16	11.7%
合 計	26	25	33	6	4	9	5	6	4	8	3	7	136	

津市・京都府木津川市・京都府八幡市・兵庫県神戸市・岡山市・香川県高松市・愛媛県新居浜市・広島県福山市・熊本市の総計52調査地域のうち、33地域、63.4%が崖や急傾斜地を含んでいました。計136地域のうち72地域、約52.9%が崖や急傾斜地をふくんでいました。

地名分析で、崖と直接に関係する地域、たとえば大阪府の枚方から他地域に出て行ったことによる間接的な地名を含めると、崖関係地域はもっと増えます。山地ではほとんどが古くからの名称で崖地でした。縄文・弥生遺跡や古墳などがある非常に古くから開けている地域も、「平」地名の多数が崖で、崖と関係なくなるのは、平安時代以降、とりわけ江戸時代以降の新田開発に関係しているところばかりです。開発に貢献した人の名前からとったりというようにつけられています。

熊本の先は執筆者は調査していません。しかし、鹿児島県の地図を見ると、山間部に「平」地名がたくさん出てきます。また沖縄については、故片山龍峯さんが実地調査をされています。片山さんが1993年に上梓された『日本語とアイヌ語』（すずさわ書店）の中で、宮古島の平良市を調べて、「宮古島では、ピラは『坂』という意味の言葉だという。」(65頁)、「石垣島のコンピラは、まさに坂で、通称コンピラ坂と呼ばれていた。」「いまはアスファルト舗装されているが、舗装される前、この坂を登るのは容易ではなかったと地元の人はいう。」(同66頁)、石垣島の川平は「海に突き出て崖状になった所であった。」(同67頁)、宮古島でも、「ひら」が崖として使われている、と記されて

います。注4)

次に実地に歩いて調べた「ひら」地名で特徴的なことを報告します。その特徴は、①竹林が多い所ということです。その訳は崖地で、土肌が顕わになっているところは、竹が繁茂しやすいことによります。それは竹が崖地に強い植物で、根で斜面を覆って動かさないようにしてしまふ。竹と崖とは表裏のように思われます。生育環境としては厳しい場所に竹が生えています。

②次に縄文・弥生遺跡と古墳などの遺跡との関連がある所がかなりあります。その訳は縄文人が住んでいた所を弥生人が奪っていったことなどによります。なぜかというと、洪水とかが常襲するような所には弥生人も住むことは出来ません。すでに切り拓かれている所を奪い、苦勞をしないで、安全・便利なところを手に入れたからです。「ひら」地名の土地の特徴は、このように非常に古い歴史をもった土地であることです。

③またピラ・崖と人々が意識して地名にするのは、人々の生活の圏内で、危険を地名で報らせる役割をさせたことです。生活圈の中で、注意すべき場所として、地名化される、ということだと思われまふ。

④当該地域に断層・活断層があることがあります。生駒山系のなかにある生駒断層上の枚岡、滋賀県の比良断層上の比良山系、淡路島の野島断層上の平林のように、活断層が走っている所も少なくありません。これは活断層研究と併行することになります。

⑤次はアイヌ語地名全般に関わることですが、当然、縄文時代に人が住んでいた場所が前提になります。たとえば、大阪市の中心を南北に走っている上町台地の東西は、縄文時代は海で、住むことができませんでしたので、そこからにはアイヌ語地名は出てこず、かつての地形に即した地名が残ることになります。

## 2. 「平」のつく山名

調査結果を裏づける資料を、いくつか出します。武内正さんという方が、

個人で18000という山の読み方を当該市町村に直接訊ねて作成された労作、『日本山名総覧』（白山書房）という本を1999年に出されました。その中に、平野山が山形県（275m）、島根県（554m）、山形県（275m）、山口県（300m）に出てきます。この他に平野岳が福岡県（890m）にあります。その他に<sup>ひらがたけ</sup>平ヶ岳（2141m 群馬県水上町・新潟県湯之谷町、1752m 北海道上川町・美瑛町）、<sup>ひらだけ</sup>平岳（北海道清里町764m、北海道芦別市・美瑛町621m、宮城県770m、長崎県465m、鹿児島県1102m）があります。平山が北海道1771m、富山県156m、大阪府254mとあります。

「平」が山の名前の頭にくる山（例えば 平ガ岳、平家岳、平根山など）は全国で75、そのうち平山・平岳は8、平石山は6、平田山は2、平尾山・平尾富士は2あります。つぎに平が山名の二、三番目にくる山、たとえば荒平山などは222あります。そのうち大平山/太平洋山という山は全国に93で、堂平山は51あります。平が山の名の最後にくる山は22で、そのなかに<sup>ふじみだら</sup>富士見平（2730m 静岡県）、<sup>ふきのだら</sup>芨ノ平（2570m 山梨県）、<sup>たかちほだら</sup>高千穂平（2050m 長野県大町市）、<sup>おおだい</sup>大平（1016m 秋田県）などがあります。同名山名順位では、大平山は全国で77ありで第5位、金比羅山は17あり61位、琴平山は8あり178位、太平洋山も8あり178位の高位です。

### 3. 方言の中の「ひら」

もうひとつの調査結果を裏づけるものは方言の世界です。ここではアイヌ語の意味が現代に生きています。各地の方言で「ひら」が「たいら」を表わすのではなく、崖や急傾斜地を表している所が、かなりあります。たとえば、『日本語方言大辞典』（小学館 1989年）の「ひら」を見ると、①平たいこと、②低いこと、③平地、④平原、⑤山の平地などについて、28の意味を列記しています。その他、⑥「山の側稜」1地域、⑦「山の斜面」28地域、⑧「傾斜地、傾斜面」58地域、⑨「山や畑の斜面」4地域、⑩「山の中腹。山腹」12地域、⑪「草の生えている斜面」5地域、⑫「緩やかな傾斜地」7地域、⑬「急な傾斜地。急勾配の坂」9地域、⑭「がけ」4地域、⑮「峯」1地域、⑯「丘」

3地域で使われています。

別の『全国方言辞典』（東條操編 東京堂出版 1951年刊）でも、「ひら→へら」の項目でも次のように記されています（697頁）。

「①山の中腹。山腹。秋田県鹿角郡。②山の斜面。山梨・静岡県榛原郡・長野県南安曇郡・岐阜県益田郡・鳥取・島根県鹿足郡。③傾斜地。斜面。青森県野辺地・岩手・山形県最上地方・新潟・群馬県吾妻郡・伊豆大島・三宅島・広島県安芸郡・大分・鹿児島県肝属郡・南島。④崖。薩摩。⑤岡。対馬。⑥平原。熊本。

以上、みたように「ヒラ」は方言の世界において、日本列島全域で、「崖」その周辺の意味で今日も使われています。

次に方言「ひら」が、『全国方言辞典』（東京堂出版 1951年刊）と『日本方言大辞典』（小学館 1989年刊）の「ひら」項目において、崖や傾斜地等を意味している地域を、青森から各県別に並べてみます。都道府県内の地域の後の数字は、出て来た数を示しています。

青森県 全域・県南部・三戸郡2・上北郡・野辺地  
岩手県 全域・気仙郡3・岩手郡・和賀郡  
秋田県 全域・雄勝郡・鹿角郡  
山形県 県北部・東田川郡2・最上郡2  
飽海郡・西置賜郡  
福島県 南会津郡3・大沼郡・耶麻郡  
栃木県 安蘇郡  
群馬県 全域・利根郡・勢多郡・吾妻郡2  
東京都 八王子・南多摩郡・三宅島2・御蔵島・大島  
神奈川県 津久井郡  
山梨県 全域・南巨摩郡・南都留郡  
新潟県 全域3・東蒲原郡3・北蒲原郡2  
西頸城郡2・佐渡2  
長野県 全域2・下高井郡・北安曇郡3

「平」らな崖・傾斜地名について

- 南安曇郡・諏訪・下水内郡
- 富山県 西礪波郡2・東礪波郡2・中新川郡
- 石川県 能美郡・河北郡
- 岐阜県 益田郡・大野郡2・揖斐郡
- 静岡県 全域2・榛原郡・駿東郡2・磐田郡・賀茂郡
- 愛知県 北設楽郡
- 滋賀県 高島郡
- 京都府 竹野郡
- 奈良県 吉野郡2
- 和歌山県 西牟婁郡・東牟婁郡
- 鳥取県 全域・八頭郡・西伯郡2
- 島根県 全域2・出雲・隠岐島・八束郡  
仁多郡・八頭郡・鹿足郡
- 岡山県 真庭郡
- 広島県 高田郡・安芸郡
- 山口県 豊浦郡
- 香川県 高見島
- 長崎県 対馬2・南高来郡
- 熊本県 天草郡
- 大分県 全域2・速見郡
- 宮崎県 東諸県郡
- 鹿児島県 肝属郡3・揖宿郡・南西諸島・加計呂麻島・奄美大島  
喜界島2・沖永良部島・与論島・薩摩
- 沖縄県 全域・国頭郡2

(なお、該当がなかった県は、宮城県・茨城県・埼玉県・千葉県・福井県・三重県・大阪府・兵庫県・徳島県・愛媛県・高知県・福岡県・佐賀県でした。)

以上を見ると、今日において「ひら」が「崖・急傾斜地」である地域は、青森から沖縄まで偏りなく全国的に使用されていることがわかります。とりわけ都市部ではなく山岳部や島嶼部で使われています。山奥に追われた縄文



人の姿が見えてきます。

#### 4. 「危険地名」としての「ひら」

もうひとつ注目すべきことは、「危険地名」としての「ひら」です。小川豊さん（1930～2007年）が『あぶない地名 災害地名ハンドブック』（2012年1月 三一書房刊）を書かれました。小川さんは建設省河川局防災課に勤められ、災害検査官をされていました。1994年には第13回日本地名研究賞を受賞され、1997年には土砂災害防止功労者として建設大臣から表彰されています。『災害と地名』『災害と植物名』など多数の著作があります。災害防止一筋の方です。小川さんの著『あぶない地名』で出てきた「ヒラ」を見てみると、

「オオヒラ/ヒラは傾斜地。地すべり危険地名/大平、大平山（例）岡山県久米郡美咲町大平」

「ニシヒラ/ニシは、①方向、方角、②躡る（ニジル）で浸食、崩壊地形を表わす。ヒラは①平坦地、②ヒラで崖、急傾斜地、崖崩れを表わす/西平 /（例）宮崎県宮崎市田野町西平。」

「ヒラ/平（ヒラ、タイラ、タイ、ダイ）は①土が崩れて地肌が表れている崖地、傾斜地、坂。山地では山崩れの起きやすい所。」

「ヒラコ/ヒラは傾斜地、コは所で場所。地すべり地/平子、平古/（例）滋賀県蒲生郡日野町平子」

「ヒラノ/山地や崖のある所では崖崩れが山裾に起こる土地/平野、平之/（例）鹿児島県鹿児島市平之町（1986年7月・集中豪雨で崖崩れ、死者18名）」

「ヒラダニ/ヒラは崖、急斜面、坂。平坦の平ではない（平坦の意のヒラもある）/平谷（/例）徳島県三好市東祖谷山字菅生平谷（1954年、75年・地すべり）（例）徳島県那賀郡那賀町平谷（那賀川右岸の急傾斜地）」

「ヒラバエ/ヒラは崖、急傾斜地のこと。ハエは①方言で南風、岩礁（山で岩の露出部分も含む）、磯。②古語で生（ハ）え、物が勢いを得るの意で、崖や急傾斜地がますます崩壊するということ/平八重、平栄、落/（例）

宮崎県都城市高城町四家字平八重」

「ヒラヤマ/ヒラは崖、急傾斜地のこと。ヤマは地表の高く盛り上がっている所/平山/（例）長崎県佐世保市相浦町平山」

「ハチマンタイ/タイ（平）は急傾斜地の地すべり地。八幡の音読がヤハタ＝ヤ（谷、岩）・ハタ（端）山の縁となる急傾斜地の地すべり地/八幡平/（例）岩手県岩手郡松尾村赤川山国有林八幡平」

また地理空間情報アナリストの遠藤宏之さんは『地名は災害を警告する』（技術評論社 2013年刊）を上梓され、以下のように記されている。「ヒラ」▼崩壊地名 【平山】【平塚】【比良】【平尾】【片平】【平子】【平野】▼環境確認と備え：崖や急傾斜地がないかを確認する。該当する場合は崩壊履歴があることが多いので豪雨の土砂災害警戒情報等に注意したい。「平」の字を充てることが多いので誤解されやすいが、意味は真逆。」(216頁)

## 5. 「ひら」「平」地名の意味するもの

崖・急傾斜地を表すアイヌ語地名「ひら」地名は、日本漢字で書き表わす場合、数種あります。漢字の「平」は非常に平易であったので、よく使用される結果となったと思われます。その他に比良・枚・平良があります。逆に「平」という漢字のつく地名のサイドで見ますと、その読み方は、「ひら」の他に、「たい（ら）」や「へい」「ぺ」とも読まれています。それらは、総合的にどう考えればよいのでしょうか。

私は日本漢字の「平」には、実際には4種の意味を含んでいると考えます。それは1) 中国漢字の意味と同じく、平らなこと、2) 「平」を「ひら」と呼ぶ場合。アイヌ語で“pira”から来た崖や傾斜地を意味する場合があること。それから3) 「平」を「たい（ら）」と呼ぶ場合、この場合もアイヌ語で、tay-ra で、“tai”はアイヌ語では、林や森（知里真志保著『アイヌ語小辞典』128頁では「tay.e 【H】 /-he 【K】 タイ①林:森。=ni-tay.②物の林立：群立。③【チカブミ】川のそばの木原」。注【H】、【K】はそれぞれ北海道、樺太―一筆者）を表します。また、raは低いを意味します。「たいら」についてア

アイヌ語による解析者の多くは森林と解しています。漢字の岱は中国では五岳のひとつ泰山のみを表しますが、日本漢字では、アイヌ語のtaiを表しているように思われます。つぎに4)「平」を「ペ」と呼ぶ場合。アイヌ語で“pet”であり、川を表します。(知里真志保著『アイヌ語小辞典』90頁では「pet.i ペツ(第3人称ペチ)川」。この“pet”は「平」のほかに、部、辺、別などと書かれることになります。日本語をじっくりと見ていくと、アイヌ語が多数出てきます。

## 6. アイヌ語と日本語の関係

そこで、大きな疑問が出てきます。朝鮮・韓国語や中国語はもちろんのこと、サンスクリット語、英語やフランス語、ドイツ語、オランダ語、ポルトガル語が日本語の中に出てくるのは理解できても、アイヌ語が多数出てくるのはなぜでしょうか。

どうしてアイヌ語地名は日本列島全域にあるのでしょうか。東北地方あたりまでだったら理解できるが、アイヌの人たちが関東以南にまで来ていたということでしょうか。1999年5月24日のNHKの「日本人のルーツを探れ」という番組で研究院大学の故宝来聡博士(1946～2004)が、縄文人の遺伝子とアイヌの人の遺伝子がまったく一緒のものが見つかった、ということをお話されていました。アイヌの祖先と縄文人とは同一であったということです。つまり、日本列島——北海道にも本州、四国、九州、沖縄にも同系統の言語をもつ人々が生活していたということです(先行研究によればアイヌ語地名はカラフト・千島にもあります)。遺伝子から見ていくと、アイヌの人たちと同じ遺伝子を持ち、同じように崖をピラと表わす人々が日本列島全域に住んでいたということになります。

それでは、日本語とアイヌ語はどういう関係にあるのでしょうか。松本克己先生(1925～元日本言語学会会長)は言語類型地理論を展開されています。その説によれば、ある言語は世界のどの言語とも単語が似ているものが5%ほどあって、似ている単語があるから同一ルーツであるとは言えない、

それよりも l と r の区別があるかとか、名詞の複数形が義務的なものと、そうでないものとか、「それぞれの言語の骨組みを決定づけるような言語特質」（『世界言語のなかの日本語』三省堂 2007年刊 82頁）から分類していくことを主張されています。その方法で見えていくと、環太平洋の諸民族語は近い関係にあります（太平洋沿岸言語圏）。そのうちの日本語と朝鮮語・韓国語とアイヌ語とギリヤーク語（別名ニヅフ語）は非常に近親関係にあり、名づけて「環日本海諸語」と呼んでおられます。その中でも朝鮮語と日本語はもっとも近い関係にあると主張されています。

また、日本史が常識的に述べていることは、1万数千年前には縄文人が日本列島に住んでいて、そこへ3000年前（これは近年の放射性炭素分析法で国立歴史民俗博物館が明らかにしたことです）に、朝鮮半島から弥生人が北九州に渡来して、その後、縄文人とまじりあって今日の日本列島人を形成した、ということです。ヒトの大移動がどのようなものであったか、近頃は明白になってきていますが、日本列島は古モンゴロイドと新モンゴロイドのミックスであることは間違いないことです。

アメリカ大陸に渡ったヨーロッパ人が、はじめは先住民の助けを受けながら、生活基盤を築いていき、やがて支配者になって行った過程と、同じことが日本列島で進行したように思われます。しかし、アメリカ大陸と異なるのは、征服者も被征服者も同じモンゴロイドで、言語が非常に近い集団どうしであったことが大きな違いです。

日本列島は今日でも世界有数の森林列島です。弥生時代はほとんどが森林で覆われていたと思われます。そこに稲作地を拓くのは、たいへん困難なことです。稲作の田は、水利の関係で緩やかな傾斜地に造らなければなりません。水害のない適地を縄文人と争奪戦したであろうと思われます。同時に、クリなどを栽培する高地を必要とする縄文人とは、どの程度か多く共存して暮らしてきたと思われます。また縄文人も、稲作を導入して縄文系弥生人になった人々もいます。旧来の生活を続けた人々とに別れたと思われます。

そうした日本列島に漢字が4世紀末頃、朝鮮半島からもたらされました（百濟よりの公伝は552年）。しかし、それは漢字の意味内容を理解したものでは

なく、自分たちのことばの音韻を表現する道具としての漢字でした。古事記も万葉集も万葉仮名で書かれました。この音韻だけの、漢字の借用は、日本より先に漢字が伝わった朝鮮半島南部の百済や新羅、加羅諸国が先行例を示しています。百済人は万葉仮名と同じ音韻のみの漢字の借用、吏読読み——自分たちが創造した漢字の読み方を日本に伝えたと思われる。それがどのようなものであったかは未だ明らかになっていません。とにもかくにも漢字は万葉仮名として使われ始めました。その以前は、武蔵（現在の関東地方）を胸刺と書き、京都府の宇治を菟道、阿波（現在の徳島県）を粟、土佐（高知県）を都佐、安芸（広島県西部）を阿岐、駿河（静岡県東部）を珠流河、但馬（兵庫県北部）を但遅麻、因幡（鳥取県東部）を稲葉と表わしました。漢字の意味を知ってつけたわけではありません。意味をこめて漢字を使ったのなら、動かないし、変化しなかったと思います。胸刺を武蔵に漢字を変えていったのは、漢字の意味を知って、胸刺ではよくないと当て字を変えていったからだと思うのです。古事記でも日本書記でも、各地の地名の由来を書いています。それは地名がどうしてそのように付けられたか、その当時は分らなかったからと思うのです。

服部四郎というアイヌ語学者が、『アイヌ語方言辞典』（岩波書店 1964年刊）で崖、“pira”について次のように書いています。

「ピラ（坂）という言葉は、古語では、ヒラという形で出てくる。＜よもつヒラ坂＞というように古事記に現れる。方言では、鹿児島でヒラという形で使われ、意味はアイヌ語と同じ、＜崖＞である。アイヌ語地名研究家の山田秀三氏によれば、東北地方ではフィラと唇を合わせた発音をし、意味は＜坂・急斜面・崖＞である。そこで沖縄のピラまで、北から順番にこれらの言葉を並べてみた。

ピラ	pira（崖）アイヌ語
フィラ	fira（坂・急斜面）東北方言
ヒラ	hira（坂）日本語古語
ヒラ	hira（崖）鹿児島方言
ピラ	pira（坂・急斜面）宮古・八重山方言

日本列島の南北端にP音が残り、東北がf音、古語や鹿児島でh音となって、まるで古代からの音の歴史の流れが地理上に置かれたようになっていく。言語地理学の典型のような配置だ。柳田国男が「蝸牛考」の中でカタツムリに関する各地の方言を比較して、古い言葉ほど日本列島の周辺に残ることを示しているが、まさにその形を成している。宮古・八重山のピラはアイヌ語のピラとまったく同じ音で、日本語最古の音であろうといわれるp音とともに保っている」(65～66頁)

アイヌ語の「ピラ」、それが「フィラ」、そして「ヒラ」になった。pira→fira→hira という変化です。

この万葉仮名は使用開始からしばらくすると、すでに平安朝の文化人がすぐには理解できないものになっていきました。倭国が白村江の戦いで、唐・新羅連合軍に敗北してから、その後の遣唐使などによって直接的な唐との関係樹立で、漢字の基本的な内容が伝わり、これまでの漢字の勝手読みと、まったく異なる、漢字の意味に忠実な時代が到来しました。

そのような変化にかかわらず、地名は地域社会全体で長い生命を保つので、万葉仮名地名はそのまま残りました、音韻として漢字を当てはめられましたが、今度はそのあてはめた漢字自身が、本来持っていた意味を發揮しはじめました。そして起源を辿れなくなったと思われます。「ピラ」が「フィラ」、そして「ヒラ」と発音されるようになり、それが平(ひら)と日本漢字で読まれ、それがまた“たいら”とも変化していくことになります。

## 6. 「ひら」「平」地名の解析例

以下は、私の調査の対象になった地名について、すでに先輩のアイヌ語地名研究者が解析しておられるので、それを紹介します。そして、自身の解析についても、記します。以下は参考にした研究者と書名です。

- ① 木村圭一著『日本地名新考・他』(1955年以前の執筆 木村英一刊)
- ② 畑中友次著『古地名の謎——近畿アイヌ地名の研究』(1957年 大阪市立大学新聞会刊)

- ③ 山本直文著『日本アイヌ地名考』（1965年 私家版）
- ④ 井上文夫著『岡山県アイヌ語地名解』（1966年 私家本）
- ⑤ 山田秀三著『北海道の地名』（1984年 北海道新聞社刊）
- ⑥ 鈴木 健著『日本語になった縄文語』（2015年 私家版）
- ⑦ 永田良茂著『古代人の心で地名を読む』（2001年 友月書房）

<オオヒラ>大平

「o-pira 群在する崖」④18頁。

<コトヒラヤマ>金刀比羅・琴平

「koto-pira 岩の崖の山」④16頁

「kot-pira（岩石の崖）香川県仲多度郡琴平町金刀羅宮—各地に金刀羅という地名があっても、それは、金比羅宮があるだけで、地形が来た地名は稀である。」③14頁

「kot-hira（岩石の崖山）、香川県琴平町」③15頁。「『讃岐のコンピラ様』で有名な香川県仲多度郡琴平町の金刀比羅神社は航海の神として船乗りの崇拝を集めている。万有百科大事典の地理編によればコンピラは梵語のクンビーラ、(鰐神)から出たとある。しかしながら、各地の山にコンピラ山や岳が存在し、海、川とは関係ない話のようでもある。地名からすれば(kamuy-pira：魔(神)の崖)と恐れられ、昔から呼ばれていた山などの地名が、後世に船乗りなどとの関係ができ、結びついたものであろう。二重母音の部分が削れて、kamu-pira からコンピラ、コトヒラへの変化は容易に気づくことができる。金刀比羅神社のある象頭山東斜面はまさしく、Kamuy-piraに相応しい地形である。一方、(kamuy：神)はこれも二重母音の部分が削れて、日本語の神(カミ)になったことは容易に分かる。」⑦24頁

『日本山名総覧』（武内正著 白山書房 1999年刊）によると、金比羅山・金毘羅岳・金毘羅山・金比良山は25、金刀比羅山は2、琴平山は11あり、総計38数えます。有名な金毘羅参りで有名な香川県の<sup>ことひらやま</sup>琴平山（象頭山524m 香川県琴平町）も含めて、北は北海道、東北の福島、関東・中部・近畿・

中国・四国・九州の熊本に到るまで、まんべんなくあります。全国の同じ名前の山名順位では金比羅山は17で61位、琴平山は8で178位で高位を占めています。

#### <タイラ>平

「tay-ra 森のある低地」④21頁。「tay-ra 森のある低地」③28頁。「ta-pira 切り立った崖」⑦27頁。長野県の菅平善光寺平<sup>すがだいらぜんこうじだいら</sup>は、いずれも“ひら”とは呼んでいない。それらの地はなだらかな傾斜地で、拓けていない時には森で覆われていたのではないか。

岩手県と秋田県境にある八幡平<sup>はちまんたい</sup> (1613m) について、小川豊さんは『あぶない地名 災害地名ハンドブック』(三一書房 2012年刊)で、「ハチマシタイ/タイ(平)は急傾斜地の地すべり地。八幡の音読がヤハタ=ヤ(谷・岩)・ハタ(端)山の縁となる急傾斜地の地すべり地/八幡平/例岩手県岩手郡松尾村赤川山国有林八幡平(178頁)、と書かれている。また、大友幸男さんは『「林」は普通には「タイ」で、川岸などの『ゆるやかな台地』も「タイ」であった。(『日本縦断アイヌ語地名散歩』三一書房 1995年刊 25頁)と書かれています。山口恵一郎さんは、八幡平を「ゆるやかな火山斜面」(『地名を考える』NHKブックス 1977年刊)と書かれています。また同著で「長野県内の主要な盆地は、山間に堆積した広濶な面で、古くから『たいら』の称で呼ばれていた。善光寺平・安曇平(松本平)・上田平・塩田平・佐久平・諏訪平・伊那平などがこれだが、谷底平野のない木曾谷は『平』と呼ばれない。国土地理院が主要自然地域名称を設定した際、全国的な基準に統一して『平』を『盆地』にしたけれども、それによって『平』名が消滅したわけではない。」(136～137頁)

長野県の山の名前で高千穂平<sup>たかちほへいら</sup> (2050m山)、茶屋ノ平<sup>ちやののたいら</sup> (1789m) もある。木曾駒ヶ岳の南方1<sup>キ</sup>には極楽平がある。地図上で見ると島田娘という山への稜線上にある。これらは「ぴら」に「平」が宛てられ、それが漢字に引きずられて「たいら」と呼び名が変化したのではないかと思われる。

#### <ヒラ>比良・平

「pira 崖」①88頁、「pira 崖」③8頁



「pira（崖、または土が崩れて地肌があらわれている崖）より出た地名」  
③267頁。「(pira:崖)は漢字化するとき大部分が平(ヒラ、タイラ)や、  
どうしても平を嫌って比良などつけられている。従って、平野などの  
平でないところが平(ヒラ、タイラ)となり、漢字の意味と地名の意味  
が逆転している。いずれにしても日本語で、山に平野を表すヒラと名付  
けることは理にかなっておらず、縄文語の(pira:崖)からのヒラと考  
えた方が相応しい。」⑦24~27頁

<ヒライ>平井

「pira-i 崖の所」①89頁。「pira-i」③8頁に崖から解析。「pira-i 崖のある所」  
④10頁。「pira-i 崖ある所」③267頁。『地名アイヌ語小辞典』では、「i  
イ」は動詞形容詞について時・所・者・物・事などの意を表わす。」(34頁)  
とあるので、「傾斜地・崖のあるところ」という意味になります。大阪南  
部の岬町にある平井岬はその例で、崖がある危険なところだから、注意  
しなさい、という所に付けられたと思われる。

<ヒライシ>平石

「pira-ushi 崖処」「平石岬(大阪一南河内)は奈良一南葛城に亘る岬であ  
る」①90頁。大阪府の河南町の平石地区は山の上の方であって、平坦  
地ではない。平石岬という所へ向かう途中にある。

<ヒライソ>平磯

「pira-iso」③8頁に崖から解析。「(小樽港の南端にある平磯崎について—  
一筆者)その岬の処が南防波堤の根もとになっている。今埋め立てられ  
たが、昔は突出した岬であった。」⑤497頁。神戸市の平磯は同様の所。  
“iso イソ”はアイヌ語で、「①水中の波かぶり岩;海または川の中にあっ  
て、しければ隠れ、なざれば現れる平たい岩。③狩または漁のえもの」(37  
頁、で、平磯はその合成です。)

<ヒラオ>平尾

「pira-ot 崖」「pira-o 崖を持つ」①90頁、「pira-ot」③8頁に崖から解析。  
「pira-o 崖の尾、山裾」⑦27頁。「pira(崖、または土が崩れて地肌が  
あらわれている崖)より出た地名」「はじめpira-o-nupri(崖ある山)と

云うような地名であったが、pira-oだけが残ったものであろう。」③ 267頁

<ヒラオカ>平岡・枚岡

「pira-ot-ka」③ 9頁に崖から解析。「pira-okay(崖多くある所)またはpira(崖)岡(和語)」② 267頁。東大阪市の枚岡神社は、当初の地名は比良のようにピラだけだったが、それでは意味が分らなくなったので、意味のある高い場所を表わす日本語の岡がついたように思われる。アイヌ語と日本語の二重の意味になった。

<ヒラガ>平賀

「pira-ka 崖又は山の上」① 90頁。「pira-ka 崖上」③8頁。「pira-ka 崖の上手」⑦ 27頁。

<ヒラカタ>枚方・平方

「pira-ka-ta 崖の上の所」① 91頁。「pira-ka-tay」③ 8頁で崖から解析。「pira-ka-ta 崖の上手の所」⑦ 27頁。「pira-ka-tai(崖上に森がある所)この名はshir-katai,(水際の崖に森がある) nupri-katai(山上に森がある)等と共に、アイヌ地名として特徴ある語である。」「(枚方は——筆者)日本書紀継体天皇24年冬10月紀か『ひらかたゆ ふえふきのぼるあふみのや——』と見え、又播磨風土記に『河内茨田郡枚方の漢人来たり云々』とあるから、かなり古い地名で、現況はその名の通り、崖の上に樹木があり、人家がある。まず淀川の堤防に接して伊加賀があり、それに続く東方の丘陵が枚方である。② 267~268頁 注<sup>5</sup>」

<ヒラカワ>平川・平河

「pira-ka-wa(崖の上手の岸)またはpiraの川(混合語)」⑦ 27頁、⑥ 182頁もpiraから解析。

<ヒラサワ>平沢

Piraに日本語の沢がついたもの。

<ヒラタ>平田

「pira-t 崖の処」① 91頁。「pira-tay」。③ 8頁に崖から解析。「pira-tay 崖の森」④ 15頁・17頁。⑦ 172頁もpiraから解析。

<ヒラツ>平津

<ヒラツカ>平塚

③ 8頁に崖から解析。塚は日本語の墓所で、崖地域にある塚と言う意味か。

<ヒラノ>平野

pira-nu 崖の多い所。

多くの平野地名が、これで解ける。大阪市の「平野」地名とその関連地名は京都市の「平野」地名との関連が考えられるが、現在のところ不明。

<ヒロノハタ>平ノ畑

<ヒラハタ>平畑

<ヒラバヤシ>平林

淡路島の平林は野島断層で有名なところで、丘陵が海岸まで押し迫っている。大阪湾へ相当、山の土砂を運んだらしく、原形が分らなくなっています。ヒラに日本漢字の林が引|つ付いたと思われます。

<ヒラフク>平福

<ヒラマツ>平松

<ヒラヤマ>平山

③ 8頁に崖から解析。

<ヒロオ>広尾

「pira-o 崖を持つ」① 89頁。「pira-o 崖山」① 93頁。「(十勝国広尾郡について——筆者) 名のもとになった広尾は崖の岬の処で・・・」⑤ 330頁

<ヒラキ>平木

「pira-ki 崖の禾」④ 20頁

<ナンペイ台><sup>なんぺいだい</sup>南平台

東京都渋谷区にあります。北平台がありません。<sup>なむ ゐんみ</sup>南は南という意味で使われているのではなく、万葉仮名でナムの当て字として使用されています。この地名はナムペ、nam-pet アイヌ語で冷たい・川を意味しています。渋谷区の南平台には、北側に渋谷川、南に目黒川がありどちらかを指していると思われます。平らな地形ではなく、傾斜地にあり、又すぐ近くに縄

文遺跡があります。高知県土佐清水市にも南平山（579m）があり、北平山がないことや、北に鍵掛川、南に久百々川に挟まれている姿は、渋谷区の南平台とよく似ています。

## あとがき)

日本列島の「平」のつく地名が崖と大きく関係している、と捉えていたのは、白河の関以南のアイヌ語地名の先輩研究者の人々は、すべてと言って間違いありません。<sup>注6)</sup>私はその方々に学んだにすぎません。しかし、そのことは日本の言語学者に受け容れられませんでした。亜流として問題にもされなかったと言った方が良いでしょう。別の視点から見ると、それはアイヌの人々に対する差別意識と大きく関わっていると思われます。

本調査費は関西外国語大学の研究費に拠るものであります。まずもって感謝申し上げます。私費の賄ではとうてい充当できない額でありました。また古代日本語についていろいろとアドバイスして下さった関西外国語大学の米山敬子先生、地震や断層について教えて下さった浅野浅春先生、そして同じ専門家の落合清茂先生、また私に同行して下さっているいろいろとお世話になった原田孝司さん、また関西外国語大学の図書館学術情報センターで資料で助けていただいた三村裕紀さん、そして大津市の平野では柿を下さって励まして下さった方に心より御礼を申し上げます。

注1) 木村圭一さんが『日本地名新考・他』（木村英一刊 1988年刊）に書かれた所によると石動は「<sup>いするぎ</sup>i-shir-ke 大・山・処」（40頁）、指宿は「<sup>いぶすき</sup>yu-pushi-ke 温泉の多い所」（87頁）と解される。雁多尾畑は「karinpa-ta山櫻のある所」（391頁）の意味と解される。「軽井沢」はkarで曲がりくねる意味があり、よく曲がりくねった所と解されます。また「目黒」は北海道の平取に、<sup>めむ</sup>芽生（mem）地名があり、水がわき出る所の意味で、目黒は、昔から水の湧き出る所で、一致しています。

注2) 平は国語辞典でも漢和辞典でも「平らか」を意味しているとしか書か

れていません。たとえば、『角川漢和辞典』（貝塚茂樹ら編著 1959年刊）では字義として「たいら」「ひとしい」「なみ」等と出ています。『新潮日本語漢字辞典』（新潮社編 2007年刊）でも変わりません。「平」は漢音で「ヘイ」、呉音で「ビョウ」、唐音で「ピン」。「たいら」「ひら」は訓読みです。『日本語大辞典』（同刊行委員会編 小学館 1997年刊）でも内容は変わりません。しかし例外は『広辞苑』（新村出編 岩波書店）で、初版（1955年刊）以来、「ひら」項目で上記のほかに、「山中にある相当広い緩斜面。天狗平てんぐひらの類」を記しています。

次に日本の古代、漢字が伝わったころの日本で話されていた言葉について書いた『時代別国語大辞典 上代編』（同編集委員会編 三省堂 1967年刊）でも、「ひら【枚・平】について、「①形状言。主に名詞と複合して薄く平らなさまをあらわす。」「②皮・皿・ヒラデなど、薄く平らなものを数える助数詞。」（624頁）と書かかれています。しかし、他の項目を見ると、「ひらの【枚野】山のほとりの斜面」「ヒラは現在の方言において、多く山の中腹・山の斜面・傾斜地を示す語として用いられている。」（624頁）と記しています。

また『岩波古語辞典』（大野晋・佐竹昭弘・前田金五郎編 1974年刊）では、「ひら①【平】①薄くて平ら。②浅くて平たい椀。平椀。③〔他の語に冠して〕イ並。普通。口ひたすらの意を表す。②【枚・方】①紙・葉など、薄くて平らなるものの称。②薄くて平らなものを数える語。という記述をしており、ここでは崖・傾斜地の意味はありません。

注3）アイヌ学の泰斗、金田一京助先生は白河の関以南のアイヌ語地名について、アイヌ語で川を意味する“nay”や“pet”が白河の関以南には見つけられないとして、アイヌ語地名は白河の関以南にはないことの根拠とされました。しかし、本調査結果はそうではないことを示しました。つまりアイヌ語地名は日本列島に濃淡なく存在していることです。先生がその論拠とされたアイヌ語地名で川を意味する「ナйнаい」や「ペツpet」についても、すでに多くの市井の研究者によって、調べられています。その研究は膨大なものがあります。執筆者もこの資料調査に取り組み、「本州以南

のアイヌ語同源地名の研究の歩み年表（未完）」として札幌に本部を置くアイヌ語地名研究会の会報（2015年5月）に掲載していただきましたので、ご参照下さい。

故木村圭一さんは『日本地名新考・他』（御子息の英一さん刊）のなかで、「金田一博士の白河以南に、ナイが無い説には賛成できない。」として以下の「ナイ」と「ペツ」地名を挙げられています（237～244頁）。この本は1988年の刊行で市町村名がその後変化しているのので、2015年末現在の地名に改めました。項目は順に、呼び名・漢字地名・木村圭一さんのアイヌ語解析と意味内容・現市町村名の順に並べました。

「ヘイナイ」平内 pei-nai 水沢（茨城県結城郡石下町・新潟県岩船郡関川村）

「サンナイ」三内 san-nai 下る沢（東京都あきる野市）

「サナイ」佐内 sa-nai 野川（新潟県上越市）

「ホナイ」保内 po-nai 小沢（新潟県岩船郡荒川町の小学校名で）

「イナイ」井内 i-nai 大沢（新潟県佐渡市旧新穂村・愛知県岡崎市）

「スズナイ」鈴内 susu-nai 柳沢（石川県珠洲市）

「ショーナイ」庄内 sho-nai 滝沢（静岡県浜松市）

「オナイ」尾内 o-nai 沢尻（福井県大飯町）

「タナイ」田内 tun-nai 柏沢（愛知県北設楽郡設楽町）

「チナイ」地内 chiu-nai 急流の沢（滋賀県高島市）

「サカナイ」阪内 sak-a-nai 鱒の沢（三重県松阪市）

「ヒナイ」日内 pi-nai 谷沢（三重県いんべ市）

「ヤイナイ」八井内 ya-i-nai 山沢（奈良県桜井市）

「ケナイ」家内 ke-nai 削った沢（兵庫県佐用郡佐用町）

「ヘナイ」戸内 pe-nai 水沢（高知県宿毛市）

「インナイ」印内 wen-nai 「悪い沢：温泉や鉱毒や濁っていたり又岩石の為に歩きにくい沢等」（新潟県上越市・石川県志賀町・静岡県掛川市・長野県佐久市・京都府福地山市・京都府京丹波町）

大印内新田 上記と同じ（新潟県上越市）

院内 上記と同じ（新潟県三条市旧下田村・石川県能都町・鳥  
取県岩見町・愛媛県北条市・大分県宇佐町）

「イヌナイ」犬内 inu-nai 漁小屋のある沢（富山県射水市）

「ナエマ」苗間 nai-oma 沢の内（埼玉県ふじみ市）

「クチャナイ」口屋内 kuttch-nai 崖沢（高知市四万十市）

「アナナイ」穴内 鱒をたずねる沢（高知県安芸市）

「カラビツ」唐櫃 kar-pet 曲がりくねった川（香川県土庄町豊島。カラト  
と呼ぶ）

執筆者注：神戸市北区にも川の近辺に唐櫃<sup>からと</sup>があります。

「シンベツ」新別 shin-pet 山川（高知県吾川郡吾北村）

「アベッター」阿別当 a-pet-o 川のある所（富山県東礪波郡利賀村）

「オオベツトウ」大別當 ou-pet-o 川尻合う川（新潟市南区）

「ベツイ」別井 pet-I 川の所（大阪府富田林市）

「ベツイン」pet-wen 悪い川。別印（福井県今立町。別院（和歌山県海南市）

「べっく」別宮 pet-k 川の所（石川県石川郡鳥越村・大阪府八尾市）

「ベッキュー」別久 pet-keu 川が合う所（静岡県浜松市）

「ベツシ」別子 pet-ushi 川の所（愛媛県宇摩郡別子山村）

別司（福井県鯖江市）別枝（高知県高岡郡仁淀村）

別所瀧（富山県小矢部市）

この研究は木村圭一さん一人の成果です。日本列島全域の「ナイ」「ベツ」  
地名を丁寧に調べつくしたら、その数は夥しく、かつ意外な成果が出てく  
るように思われます。

注4）韓国の「ぴら」

『地名アイヌ語辞典』の“pira”の中に、[朝鮮語のピラ（崖）と関係ある  
かもしれない]という一筆が付け加わっています。徐廷範という方が「韓  
国の15世紀の語にピレ（pire、崖）またはピロウ（pira、崖）がある。現代  
韓国語ではピョラン（pyoraᅇ、崖）である。日本語のヒラ（hira、崖）の  
原形の語根であるピル（pir）と、韓国語での「崖」の意の語根ピル（pil）  
とは、同根語であることは確かである」（『韓国語で読み解く古事記』（大

和書房 1992年刊 37頁)と書いています。ソウルの北に加平<sup>カピョン</sup>というところは、たくさんの人に質問しましたが、山間部のキャンプ場で、平坦地ではないようです。

また、1939年に菱沼右一さんの著『アイヌ語より見た日本地名新研究』には「樺太地名考」があり、その中に、古平郡・平岸村・平田内村・平賀村・手取町・平糸村をあげておられます。すべて崖地を含んだ地名です。注5)「ヒラカタ」。ここで全国にある「ヒラカタ」地名を北から順に並べます。

秋田県湯沢市・平方山(717m)、同県仙北郡南外村・平形、山形県粟田川郡藤島町・平形、福島県会津若松市・平潟、栃木県下妻市・平方、茨城県北茨城市・平方、埼玉県越谷市・平方ならびに平方新田、同県上尾市・平方、同県鴻巣市・平方、同県吉川市・平方新田、同県越谷市・平方、新潟県牧村・平方、同県日根村・平潟、岐阜県羽島市・平方、千葉県流山市・平方、東京都江東区の旧平方(現大島の一部)、三重県長島町の平方、滋賀県長浜市の平方、兵庫県揖保郡太子町・旧平方(現佐用岡)、徳島市・旧平方荘(現春日町)、愛媛県新居浜市・平形、福岡県小郡市・平方で総計23箇所あります。

大阪の枚方由来と思われるものは、東京都江東区と兵庫県揖保郡が、ルーツのはっきりしているものです。大阪の枚方には百済寺も百済神社もあり、百済渡来の人々が大勢住み、奈良・平安時代、有力な貴族を輩出しています。その栄えた所から全国にその足を伸ばしていたことは十分に考えられます。

ところで、大阪府の枚方について、枚方市が2001年に刊行した『郷土枚方の歴史』(枚方市史編纂委員会編)では、次のように記述しています。

『日本書紀』にみえる「ひらかた」は「比羅智駄」と表記されている。「枚方」と漢字で表記された最初の文献は『播磨<sup>はりまのくに</sup>風土記<sup>ふどき</sup>』で、「河内国茨田郡枚方の里の漢人<sup>あやひと</sup>来<sup>きた</sup>りて、始めて此の村に<sup>お</sup>居<sup>い</sup>りき」と、揖保郡枚方里の条に記されている。揖保郡の枚方は現在太子町にあり、「平方」と表記している。「枚方」の漢字がなぜ選ばれたのか明らかでなく、「ひらかた」の地名の由来についても確かなことはわからないが、一つの仮説として「くすは」同様にアイヌ語に語源を求めると、



「平」らな崖・傾斜地名について

「pira」は「崖」、「kata」は「上」という意味なので、「ひらかた」は「崖の上」を意味する。地名にはその土地の特徴を表す言葉が使用されることがあるので、崖を示す地形を枚方周辺で探すと、北に伸びた枚方丘陵の先端が淀川に突き出る万年寺山の崖は30～40mの落差がある。古墳時代前期には、この崖の上に万年寺山古墳が築造されている。まさに「崖の上」である「万年寺山」こそ「ひらかた」を意味しているのであろうか。

現在の枚方市内で、枚方という名称が付く地名は枚方元町、枚方山之上町のみで、丘陵の上に位置しています。

資料・「ひら」「平」地名調査報告

以下は、執筆者が2011年1月から2015年11月までの間に、141ヶ所の「ひら」地名地域を調査した記録です。ほとんどの地域はビデオに収めています。紙面の関係上、たんにその地域の形状のみを記しました。当該地が平坦地か、あるいは崖地・急傾斜地か、判断の付きかねる所は判断困難地として表しました。

<東京都>

1. 江戸川区平井 平坦地。
2. 墨田区<sup>なりひら</sup>業平 平坦地。
3. 墨田区<sup>たいへい</sup>太平 平坦地。
4. 江東区旧平野町 平坦地。
5. 江東区平野町 平坦地。
6. 江東区旧平井 平坦地。
7. 江東区旧平井町 平坦地。
8. 江東区旧平井新田 平坦地。
9. 江東区旧平方 平坦地。
10. 江東区旧平富町 平坦地。
11. 葛飾区旧平井中町 平坦地。
12. 足立区加平・西加平・北加平 平坦地。
13. 東京都足立区平野 平坦地。
14. 北区平塚 崖地あり。
15. 品川区平塚 傾斜地あり。
16. 目黒区平町 傾斜地あり。
17. 渋谷区南平台町 傾斜地あり。
18. 渋谷区広尾 傾斜地あり。
19. 新宿区旧平長町 傾斜地あり。
20. 西多摩郡日の出町平井 傾斜地あり。
21. 秋川市平沢 傾斜地あり。
22. 八王子市平 崖地あり。
23. 日野市平山 傾斜地あり。
24. 稲城市平尾 崖地あり。
25. 千代田区平河町 判断困難地。
26. 東京都小平市 平坦地。

<大阪府>

27. 能勢町平通 傾斜地あり。
28. 能勢町平野 傾斜地あり。
29. 高槻市南平台 傾斜地あり。
30. 箕面市旧平尾村 崖地あり。
31. 吹田市 平松町 平坦地。
32. 茨木市平田町 平坦地。
33. 枚方市枚方元町・上之町 崖地。
34. 寝屋川市平池町 平坦地。
35. 大東市平野屋町 平坦地。
36. 守口市平代町 平坦地。
37. 東大阪市・枚岡 崖地あり。
38. 大阪府中央区東平 判断困難地。
39. 大阪府平野区 平坦地。
40. 大阪府中央区平野町 平坦地。
41. 大阪府大正区平尾 平坦地。
42. 大阪府住之江区平林 平坦地。
43. 柏原市平野 傾斜地あり。
44. 堺市西区平岡町 判断困難地。
45. 堺市中区平井 傾斜地あり。
46. 和泉市平井町 傾斜地あり。
47. 堺市美原区平尾 傾斜地あり。
48. 河南町平石 崖地あり。
49. 富田林市平町 傾斜地あり。
50. 岬町・平山 山名。
51. 岬町・平井峠 崖地あり。

<福岡県>

52. 北九州市門司区伊川平山 傾斜地あり。  
53. 北九州市門司区伊川平原 傾斜地あり。  
54. 北九州市八幡西区平尾町 傾斜地あり。  
55. 北九州市八幡東区平野 判断困難地。 56. 北九州市八幡東区台良 傾斜地あり。  
57. 北九州市小倉北区平松町 平坦地。 58. 若宮市平 判断困難地。  
59. 福岡市博多区東平尾 傾斜地あり。 60. 福岡市中央区平尾 傾斜地あり。  
61. 福岡市南区旧平原村 平坦地。 62. 小郡市平方 平坦地。  
63. 三井郡大刀洗町平田 平坦地。 64. 大野城市平野台 判断困難地。  
65. 筑後市旧平石 平坦地。 66. 八女市平 平坦地。  
67. 八女市平田 平坦地。 68. 久留米市平原公園 傾斜地あり。  
69. 久留米市平 平坦地。 70. 朝倉市平塚 平坦地。  
71. 朝倉市比良松 平坦地。 72. 朝倉市平榎 傾斜地あり。  
73. 田川市平松町 傾斜地あり。 74. 嘉麻市平 傾斜地あり。  
75. 飯塚市平恒 傾斜地あり。 76. 嘉麻市旧平原村 傾斜地あり。  
77. (旧碓井町) 平山炭鉱 傾斜地あり。 78. 飯塚市平塚 傾斜地あり。  
79. 柳川市旧平木村、平坦地。 80. 大牟田市旧平野村、現在歴木 判断困難地。  
81. 市平原町 判断困難地。 82. 宇佐市平松 平坦地。  
83. 中津市北平・南平 平坦地。 84. 中津市平原 判断困難地。

<大津市>

85. 大津市比良 崖地あり。 86. 大津市膳所平尾町 傾斜地あり。  
87. 大津市大平 傾斜地あり。 88. 大津市平津 傾斜地あり。  
89. 津市岡の平 崖地あり。 90. 大津市平野 傾斜地あり。

<京都府八幡市>

91. 八幡市平野山 傾斜地あり。 92. 八幡市平ノ山 傾斜地あり。  
93. 八幡市平谷町 傾斜地あり。 94. 八幡市平田 平坦地。

<京都府木津川市・井手町>

95. 木津川市加茂町井平尾 傾斜地あり。  
96. 木津川市山城町上狛平ノ畑 傾斜地あり。  
97. 木津川市山城町椿井大平 傾斜地あり。  
98. 木津川市山城町椿井田護平 傾斜地あり。  
99. 木津川市山城町旧平尾村 傾斜地あり。  
100. 木津川市山城町綺田平後 傾斜地あり。

101. 木津川市平 傾斜地あり。 102. 井手町平山 傾斜地あり。  
103. 井手町平畑 傾斜地あり。

<神戸市>

104. 神戸市垂水区平磯 崖地あり。 105. 神戸市道場町平田 傾斜地あり。  
106. 神戸市西区平野 平坦地。 107. 神戸市兵庫区平野町 傾斜地あり。  
108. 神戸市東灘区御影町西平野 平坦地。

<岡山市>

109. 岡山市平山 傾斜地あり。 110. 岡山市平野 平坦地。  
111. 岡山市平田 平坦地。 112. 岡山市平福 平坦地。  
113. 岡山市平井 傾斜地あり。  
114. 岡山市天瀬南町（旧平野町） 平坦地。

<福山市>

115. 福山市神辺町平野地区 傾斜地あり。  
116. 福山市赤坂町加屋平 傾斜地あり。  
117. 福山市水呑町平木 傾斜地あり。 118. 福山市平 傾斜地あり。

<高松市>

119. 高松市大平山 山名。 120. 高松市平賀下 崖地あり。  
121. 三木町平井 平坦地。 122. 三木町平尾 平坦地。  
123. 三木町平田池 平坦地。 124. 高松市平石 傾斜地あり。  
125. 高松市平池 判断困難地。 126. 高松市平塚 平坦地。

<新居浜市>

127. 新居浜市奥ノ平 傾斜地あり。  
128. 新居浜市平尾墓園・平尾谷不燃物埋立所 傾斜地あり。  
129. 新居浜市平形町 平坦地。

<熊本市>

130. 熊本市植木平原 傾斜地あり。 131. 熊本市植木平尾山 山名。  
132. 熊本市植木町平野 判断困難地。 133. 熊本市植木平井 傾斜地あり。  
134. 合志市平野 傾斜地あり。 135. 熊本市琴平町・琴平本町 平坦地。  
136. 熊本市平田 平坦地。